

半導体漫遊記

湯之上隆

米インテルは8月16日に、英ARMのプロセッサのライセンス供与を受けると発表し、ARMは、ソフトバンクに買収された半導体メーカーである。今後インテルは、14nmの最先端の微細加工技術を使って、ARM仕様のプロセッサを生産する。まずは、韓国のLG電子向けのスマートフォンプロセッサの受託生産(ファンドリー)を行う。

ところが、ファンドリーは、最先端の微細加工技術さえあれば容易にできるというものはなかったため、ファンドリーでトップを快走する台湾TSMCには全く歯が立たなかった。そこで、2015年には世界で145

英ARMからライセンス供与

実を取った米インテル

年頃から携帯電話用プロセッサに参入しようとしていたが、その90%以上がARM仕様のプロセッサを使っている。それ故、ARMからライセンス供与を受ければ、冒頭のとおり、スマートフォンからIoT電子のように、スマートフォンからプロセッサの製造委託を受けることになる。現在IoTは普及しつつあり、2020年には、500億個のデバイスがネットに繋がると見られている。これらのIoT用プロセッサで最も重要なのは、低消費電力性である。ARMは、クオータ。ところが、抜群のMからライセンスを受けざるを得なかったのである。

ARMは、最先端の微細加工技術さえあれば容易にできるというものはなかったため、ファンドリーでトップを快走する台湾TSMCには全く歯が立たなかった。そこで、2015年には世界で145

ARMは、最先端の微細加工技術さえあれば容易にできるというものはなかったため、ファンドリーでトップを快走する台湾TSMCには全く歯が立たなかった。そこで、2015年には世界で145

ARMは、最先端の微細加工技術さえあれば容易にできるというものはなかったため、ファンドリーでトップを快走する台湾TSMCには全く歯が立たなかった。そこで、2015年には世界で145

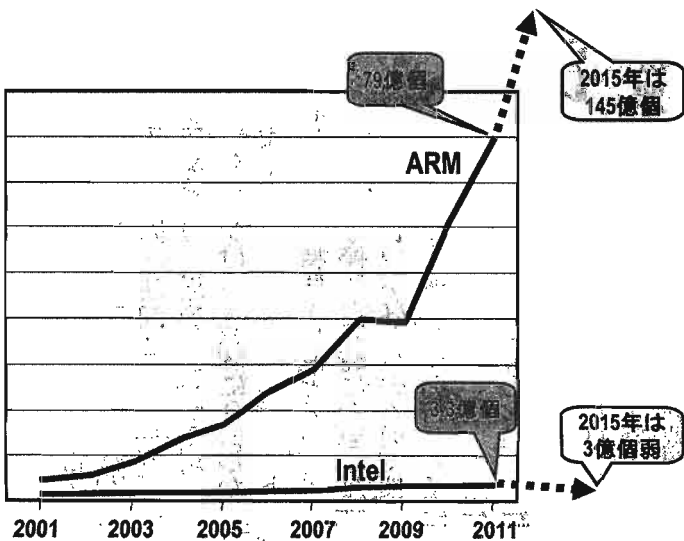


図1 ARMとインテルのプロセッサ売上個数

ARMを買収したソフトバンクの孫社長は、「ITで世界を制覇する」と言った。その野望は一歩前進したと私は見ている。

（微細加工研究所 所長）

(出所: Michael Copeeland「帝国の逆襲」, WIREDD.jp VOL.6、45ページを参考に筆者作成)